様式第２号の１－①【⑴実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第２号の１－②を用いること。

学校名	北翔大学
設置者名	学校法人　北翔大学

１．「実務経験のある教員等による授業科目」の数

<table>
<tr><th rowspan="2">学部名</th><th rowspan="2" colspan="2">学科名</th><th rowspan="2">夜間・通信制の場合</th><th colspan="4">実務経験のある教員等による授業科目の単位数</th><th rowspan="2">省令で定める基準単位数</th><th rowspan="2">配置困難</th></tr>
<tr><th>全学共通科目</th><th>学部等共通科目</th><th>専門科目</th><th>合計</th></tr>
<tr><td rowspan="3">生涯スポーツ学部</td><td colspan="2">生涯スポーツ学科</td><td>夜・通信</td><td rowspan="10">6</td><td>4</td><td>4</td><td>１４</td><td>１３</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">スポーツ教育学科</td><td>夜・通信</td><td rowspan="2">6</td><td>2</td><td>１４</td><td>１３</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">健康福祉学科</td><td>夜・通信</td><td>2</td><td>１４</td><td>１３</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="7">教育文化学部</td><td rowspan="4">教育学科</td><td>初等教育コース</td><td>夜・通信</td><td rowspan="7">—</td><td>8</td><td>１４</td><td>１３</td><td></td></tr>
<tr><td>幼児教育コース</td><td>夜・通信</td><td>8</td><td>１４</td><td>１３</td><td></td></tr>
<tr><td>養護教諭コース</td><td>夜・通信</td><td>8</td><td>１４</td><td>１３</td><td></td></tr>
<tr><td>音楽コース</td><td>夜・通信</td><td>8</td><td>１４</td><td>１３</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">芸術学科</td><td>夜・通信</td><td>8</td><td>１４</td><td>１３</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">心理カウンセリング学科</td><td>夜・通信</td><td>8</td><td>１４</td><td>１３</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="10">（備考）生涯スポーツ学部生涯スポーツ学科は令和８年度４月より開設。完成年度を迎えた場合の単位数である。</td></tr>
</table>

２．「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

大学ホームページに掲載 https://www.hokusho-u.ac.jp/hokusho/files/R8%E5%AE%9F%E5%8B%99%E7%B5%8C%E9%A8%93%E3%81%AE%E3%81%82%E3%82%8B%E6%95%99%E5%93%A1%E7%AD%89%E3%81%AB%E3%82%88%E3%82%8B%E6%8E%88%E6%A5%AD%E7%A7%91%E7%9B%AE%E4%B8%80%E8%A6%A7.pdf

３．要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
（困難である理由）

様式第２号の２－①【⑵-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第２号の２－②を用いること。

学校名	北翔大学
設置者名	学校法人　北翔大学

１．理事（役員）名簿の公表方法

ホームページ https://www.hokusho-u.ac.jp/images/109/files/yakuin_2026.pdf

２．学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	社会福祉法人 渓仁会理事長	令和 7 年 5 月 29 日～令和11年度　定時評議員会終結の時まで	医療･福祉関係、企業との連携
非常勤	川本謙一級建築士事務所 代表	令和 7 年 5 月 29 日～令和11年度　定時評議員会終結の時まで	スポーツ関係団体機関、企業との連携
（備考）			

様式第２号の３【⑶厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	北翔大学
設置者名	学校法人　北翔大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

１．授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
（授業計画書の作成・公表に係る取組の概要） 全ての科目について、詳細なシラバス（講義要綱）を作成している。作成に当たっては、学習支援委員会において、シラバス作成における記載事項を定め、記載方法の統一を図り、授業担当者は示された記載要領に沿ってシラバスを作成している。 シラバスの記載事項は、「科目名」「単位数」「教員名」「授業の目的（ねらいと到達目標)」「授業の計画（テーマ、計画内容、授業時間外の学修内容、具体的な学習形態)」「テキスト」「参考書」「成績評価の方法（配分、補足)」「課題に関するフィードバックの方法」「実務経験と授業の関連（経験内容、科目との関連)」「質問への対応」「資格」「その他（履修に際しての留意事項等)」としている。 シラバスの作成過程は、例年、前年度の 12 月頃までに学習支援委員会でシラバス作成の方針・留意事項等をまとめ、翌年１月にシステムへの入力を授業担当者に依頼している。提出されたシラバスは、学習支援委員等の確認・校正等を経て、ホームページに掲載し公表している。	
授業計画書の公表方法	学生ポータルサイト(UNIPA)及び本学ホームページから閲覧システムにより検索可能である。 ・本学ホームページ「講義要綱（シラバス)」 https://unipa.hokusho-u.ac.jp/hksuprx/up/pk/pky001/Pky00101.xhtm
２．学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	

（授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要）
単位認定については、各学部・学科のディプロマ・ポリシーを踏まえ、学則に規定する基準に基づいて行われている。
　評価方法については、講義等における多様な評価方法をとることを推進しており、シラバスに、その評価方法を記載している。評価方法は、筆記試験、実技試験、課題評価、作品評価、受講態度等共通項目をたて、評価の配分を示し、補足欄にその詳細を記載している。評価については、Ｓ(90 点以上)・Ａ(89～80 点)・Ｂ(79～70 点)・Ｃ(69～60 点)・Ｄ(59 点以下)の５段階によって評価し、Ｓから Ｃまでを合格とし単位が与えられる。
　なお、段階を設けた成績評価の意味や数値、計算等については学生便覧に記載し、学生ポータル等も活用し学生に周知している。

３．成績評価において、ＧＰＡ等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

（客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要）
本学では、GPA(Grade Point Average)制度を導入しており、Ｓ＝4.0　Ａ＝3.0　Ｂ＝2.0　Ｃ＝1.0　Ｄ＝0.0　としている。GPA の計算は、以下のとおりである。

$$\text{学期 GPA} = \frac{(\text{その学期に評価を受けた科目で得た GP}) \times (\text{科目の単位数}) \text{ の合計}}{\text{その学期に評価を受けた科目の単位数の合計}}$$

$$\text{年間 GPA} = \frac{(\text{その学年に評価を受けた科目で得た GP}) \times (\text{科目の単位数}) \text{ の合計}}{\text{その学年に評価を受けた科目の単位数の合計}}$$

$$\text{通算 GPA} = \frac{\left(\left(\text{各学期に評価を受けた科目で得た GP}\right) \times \left(\text{その科目の単位数}\right) \text{ の合計}\right) \text{ の総和}}{\left(\text{各学期に評価を受けた科目の単位数の合計}\right) \text{ の総和}}$$

GPA は、学生の履修指導、奨学金の選定、学業表彰対象者の選定等に活用されており、教員は、学生の GPA データをもとに授業改善に役立てている。
CAP 制度については、学生が履修する講義・演習・実習内容について予習・復習を含めて主体的に学ぶ機会を保障するために、各学年次で履修登録できる単位数を 48 単位に制限している。なお、資格関連科目においては一部 CAP 除外科目を設定している。また、GPA の評価によって、以下のとおり上限単位数を超えて履修できることにしている。
・直前学年次の年間 GPA が 3.5 以上の場合は、８単位加算
・直前学年次の年間 GPA が 3.0 以上 3.5 未満の場合は、４単位加算
・直前学年次の年間 GPA が 3.0 未満の場合は、単位加算なし
これら GPA 制度及び CAP 制度については根拠規定を設けるとともに、学生便覧に記載し学生に周知している。また、学生ポータルでは学生本人が自身の GPA を確認できるようになっている。

客観的な指標の 算出方法の公表方法	GPA 制度の説明と算出方法等については学生便覧に記載している。学生便覧は本学ホームページにも掲載され、学内外を問わず誰でも閲覧することができる。 ・本学ホームページ「学生便覧」 https://www.hokusho-u.ac.jp/undergraduate/handbook/

４．卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要）

卒業認定等は、各学部・学科におけるディプロマ・ポリシーを踏まえ、学則に規定する基準に基づいて行われている。各学部・学科のディプロマ・ポリシーはそれぞれの学部・学科の教育目的を踏まえて策定され、大学案内、学生便覧、ホームページなどで公表している。

大学学部の卒業要件単位数は 124 単位である。卒業認定については、学科会議・学部会議で単位の修得状況などについて厳正に審査を行い、教授会で審議のうえ決定している。

卒業の認定に関する 方針の公表方法	・大学案内 北翔大学アドミッションセンター ・学生便覧　本学ホームページ https://www.hokusho-u.ac.jp/undergraduate/handbook/ ・ディプロマ・ポリシー　本学ホームページ 生涯スポーツ学部 https://www.hokusho-u.ac.jp/school/lifesport/ 生涯スポーツ学科 https://www.hokusho- u.ac.jp/school/lifesport/lifelongsport/ スポーツ教育学科 https://www.hokusho- u.ac.jp/school/lifesport/sporteducation/ 健康福祉学科 https://www.hokusho- u.ac.jp/school/lifesport/healthwelfare/ 教育文化学部 https://www.hokusho- u.ac.jp/school/educationalcultural/ 教育学科 https://www.hokusho- u.ac.jp/school/educationalcultural/education/ 芸術学科 https://www.hokusho- u.ac.jp/school/educationalcultural/artanddesign/ 心理カウンセリング学科 https://www.hokusho- u.ac.jp/school/educationalcultural/psycology/

様式第２号の４－①【⑷財務・経営情報の公表（大学・短期大学・高等専門学校）】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第２号の４－②を用いること。

学校名	北翔大学
設置者名	学校法人　北翔大学

１．財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.hokusho-u.ac.jp/hokusho/files/令和7年度財務公開資料.pdf
収支計算書又は損益計算書	https://www.hokusho-u.ac.jp/hokusho/files/令和7年度財務公開資料.pdf
財産目録	https://www.hokusho-u.ac.jp/hokusho/files/令和7年度財務公開資料.pdf
事業報告書	https://www.hokusho-u.ac.jp/hokusho/files/令和7年度事業報告書.pdf
監事による監査報告（書）	https://www.hokusho-u.ac.jp/hokusho/files/令和7年度財務公開資料.pdf

２．事業計画（任意記載事項）

単年度計画（名称：　　対象年度：　　）
公表方法：
中長期計画（名称：　　対象年度：　　）
公表方法：大学ホームページ https://www.hokusho-u.ac.jp/hokusho/chukikeikaku/index.html

３．教育活動に係る情報

（１）自己点検・評価の結果

公表方法：大学ホームページ https://www.hokusho-u.ac.jp/hokusho/corporation.html

（２）認証評価の結果（任意記載事項）

公表方法：大学ホームページ https://www.hokusho-u.ac.jp/hokusho/jihee.html

（３）学校教育法施行規則第 172 条の２第１項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名　生涯スポーツ学部
教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページ） https://www.hokusho-u.ac.jp/hokusho/files/%E6%95%99%E8%82%B2%E7%A0%94%E7%A9%B6%E4%B8%8A%E3%81%AE%E5%9F%BA%E7%A4%8E%E7%9A%84%E3%81%AA%E6%83%85%E5%A0%B1_001%E6%95%99%E8%82%B2%E7%A0%94%E7%A9%B6%E4%B8%8A%E3%81%AE%E7%9B%AE%E7%9A%84.pdf.pdf
（概要） スポーツや健康に関する理論や実践について探求し、主体的・活動的・健康的な生き方を実践・支援できる 人材を育成し、生涯にわたってスポーツに親しむ事ができる健康で豊かな生涯スポーツ社会の構築に貢献 することを教育目標として、実践力のある人間性豊かな生涯スポーツのスペシャリストを育成する。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：学生便覧、本学ホームページ、大学案内）https://www.hokusho-u.ac.jp/school/lifesport/
（概要） 生涯スポーツ学部（以下、「本学部」という）は生涯スポーツ社会の実現を目指し、スポーツ・健康・教育・福祉・地域づくり分野の学びを通して、幅広い世代の支援者として、主体的・活動的・健康的な生き方を実践できる能力を身に付けた以下の学生に、「学士（スポーツ科学）」「学士（社会福祉学）」の学位を授与する。 (1) 幅広い教養と豊かな人間性をもとに、実践的コミュニケーション力により、多様な人々との関係づくりと協働を可能とする総合的な力を備えている。 (2) スポーツや学校教育、健康・福祉・地域づくり等の分野や社会の中で生まれる事柄に取り組むための科学的な知見と客観的な判断力を備えている。 (3) 培った知識・技術を活用してスポーツや学校教育、健康・福祉・地域づくりの分野や地域社会の様々な活動に取り組むための実践者としての指導力・組織力を備えている。 (4) スポーツや学校教育、健康・福祉・地域づくりの分野における専門的職業人としての素養を身に付け、保健体育科教諭、競技者、コーチ、スポーツトレーナー、アナリスト、健康運動指導士、社会福祉士、公務員などになるための基礎的な能力を備えている。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：学生便覧、本学ホームページ、大学案内）https://www.hokusho-u.ac.jp/school/lifesport/
（概要） 本学部の教育課程は、スポーツや健康・福祉・地域づくりの分野における専門的職業人の養成を目指し、基本的理論の修得と演習・実習等による実践力を育成するカリキュラムとなっている。さらに、学生の関心領域の拡大に向け、複数の専門分野にわたる横断的な履修や他学部の関連領域への発展的履修も可能となっている。そのことにより、学生は、自己が描く専門職像に適した幅広い教養と専門性を備えることができる。 カリキュラムの基本的な構成は次の４群である。 (1) 幅広い教養と就職に必要な社会人基礎力を養成する科目群(全学共通科目・就業力養成科目) (2) 自己の専門的領域を深めるための学際的科目群(発展科目) (3) 自己の専門的志向を確認する基礎的な科目群と基礎学力を養成する科目群(学部基盤科目) (4) 自ら選択した専門領域を深める専門的な科目群(学科専門科目)
入学者の受入れに関する方針（公表方法：学生便覧、本学ホームページ、大学案内） https://www.hokusho-u.ac.jp/school/lifesport/

（概要）
本学部は、生涯スポーツ社会の実現を目指してスポーツ・健康・教育・福祉・地域づくりという視点から、人々の活き活きとした生活をサポートする人材の養成を通して地域社会の発展に貢献することを目的とする。そのためには、スポーツ・健康・教育・福祉・地域づくりの分野において実践的指導者となるような以下の資質を備えた人たちを求める。
(1) 高等学校の教育課程を修得し、入学後の修学に必要な基礎学力を有している。
(2) スポーツ・健康・教育・福祉・地域づくりの専門分野に関心があり、この分野を通して地域社会へ貢献したいという情熱を持っている。
(3) 保健体育科教諭、アスレティックトレーナー、健康運動指導士、社会福祉士などの専門的職業人を目指している。
(4) 知的好奇心が旺盛で何事にも主体的に行動できる。
(5) 課題等に対して積極的に取り組もうとする意欲がある。
(6) 他者との相互理解をはかり人間関係を円滑に保つことができる。

学部等名　生涯スポーツ学部生涯スポーツ学科

教育研究上の目的（公表方法：学生便覧、大学ホームページ、大学案内）
https://www.hokusho-u.ac.jp/hokusho/files/%E6%95%99%E8%82%B2%E7%A0%94%E7%A9%B6%E4%B8%8A%E3%81%AE%E5%9F%BA%E7%A4%8E%E7%9A%84%E3%81%AA%E6%83%85%E5%A0%B1_001%E6%95%99%E8%82%B2%E7%A0%94%E7%A9%B6%E4%B8%8A%E3%81%AE%E7%9B%AE%E7%9A%84.pdf.pdf

（概要）
豊かな人間性と幅広い教養をもち、スポーツ・健康・教育・福祉・地域づくりに関する専門知識と実践技術を修得し、生涯スポーツ社会の実現に貢献できる人材を養成する。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：学生便覧、本学ホームページ、大学案内）https://www.hokusho-u.ac.jp/school/lifesport/lifelongsport/

（概要）
本学科では、以下に示す資質・能力等を修得した者に学位を授与する。
【知識・理解】
(1)豊かな人間性と社会人として必要な幅広い教養を身に付けている。
(2)運動・スポーツ・健康・教育・福祉・地域づくりなど、自ら選択した専門分野に関する専門知識を身に付けている。
(3)保健体育科教諭、健康運動指導士、アスレティックトレーナー、社会福祉士などを目指す学生は、各養成課程で求められる知識を身に付けている。
【思考・判断】
(4)自ら考え、設定した課題について、運動・スポーツ・健康・教育・福祉・地域づくりの学問領域の研究方法で学んだ知識を活用し、適切な解決策を考えることができる。
【関心・意欲・態度】
(5)生涯スポーツ社会実現に向けての課題に関心を持ち、幅広い視野で解決策を考える意欲がある。
(6)多様な価値観をもつ人々が暮らす社会において、自らの役割を自覚するとともに、他者と協働して活動することができる。
【技能・表現】
(7)スポーツを通じて培われたコミュニケーション能力と運動・スポーツ・健康・教育・福祉・地域づくりに関する専門的技能と指導力を身に付けている。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：学生便覧、本学ホームページ、大学案内）https://www.hokusho-u.ac.jp/school/lifesport/lifelongsport/

（概要）
本学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するため、以下の方針に基づき教育課程を編成する。
【教育内容】
生涯スポーツ社会で活躍できる豊かな人間性と専門性を兼ね備えた人材となるために、スポーツ・健康・教育・福祉・地域づくりに関する知識と実践力を段階的に身に付けることができるよう基礎的科目から専門・応用科目を体系的に学修する。以下の 4 群に分けたカリキュラム構成とする。
① 幅広い教養と就職に必要な社会人基礎力を育成する科目群(全学共通科目・就業力養成科目)
② 自己の専門的領域を深めるための学際的科目群(発展科目)
③ 自己の専門的志向を確認する基礎的な科目群と基礎学力を養成する科目群(学部基盤科目)
④ 自ら選択した専門領域を深める専門的な科目群(学科専門科目)
(1) 講義においては、基礎的・専門的な知識を学ぶ。演習においては自己の課題を発見し、他者との討議を積極的に行い、問題解決能力を高める。実習においては、地域社会における様々な体験活動を通し、実践的指導力やコミュニケーション能力を高める。
(2) 社会人基礎力を修得するための基礎学力の向上、幅広い教養を身に付ける。
(3) 1 年次においては基礎学力の向上を目指しながら、スポーツ・健康・教育・福祉・地域づくりなど、関心のある専門分野を中心に幅広い基礎的知識の修得を目指す。2 年次には関心のある専門分野を進めながら、関連する専門分野の学びも行っていく。
(4) 3 年次からゼミナール形式での「専門演習」を通して専門的な教育を行い、各自の適性・進路に合った、より専門的な知識や技術を修得する。併せて、より幅広い視野を得るために関連する専門分野の学びも深めていく。また、地域における実習・ボランティア活動に取り組むことにより、コミュニケーション能力や実践的指導力を高めることを目指す。
(5) 4 年次では、4 年間の学びの集大成として「卒業研究」を通して、専門性をより深く追究し、社会人基礎力の向上に努める。
【教育方法】
(1) 主体的な学びを促進するために、講義、演習、実習や実技においてアクティブ・ラーニングを取り入れた教育方法を採用する。(一部の科目は除く)
(2) 1 年次では、少人数制担任制度を用いて担任による個人面談を実施し、学修意欲と基礎学力を向上させる。
(3) 2 年次では、1 年次の学修内容の振り返りを定期的に行い、学修の習熟度を評価し、担任のサポートによる学修意欲や基礎学力のフォローアップを行い、専門演習選択のための評価基準とする。
(4) 3・4 年次においては、少人数制の専門演習を必修化し、インタラクティブな教育を実施する。
(5) 3・4 年次はゼミ担当者を通じて教員による個人面談を実施し、学士力、社会人基礎力を養う上での学びの振り返りを促す。
【教育評価】
(1) 講義科目、演習・実習科目においては、「筆記試験」、「課題評価」、「作品評価」、「受講態度」等によって、実技科目においては、更に「実技試験」の項目を追加して、学修の習熟度を多角的に評価する。
(2) 各学年において学期ごとに単位の取得状況を確認し、スポーツ・健康・教育・福祉・地域づくりに関する専門的知識と高い実践力を身に付け、生涯スポーツ社会に貢献できる人間性豊かな人材としての準備状況の確認評価を行う。
(3) 4 年間の学修成果は単位の取得状況、専門演習、卒業研究や資格の取得状況等で総括的に評価を行う。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：学生便覧、本学ホームページ、大学案内）
https://www.hokusho-u.ac.jp/school/lifesport/lifelongsport/

（概要）
本学科では、以下に示す資質・能力等を身に付けた者を受け入れる。
(1) 高等学校の教育課程を修了し、高等学校卒業に相当する学力を身に付けている。
(2) 高等学校までの履修内容を通じて、聞く・話す・読む・書くというコミュニケーション能力の基礎的な内容を身に付けている。
(3) 身近な社会問題について、自ら得た知識・情報に基づいて論理的に思考し、それを説明することができる。
(4) スポーツ活動を通して積極的に他者とかかわり、対話を通して相互理解に努めようとする態度を有している。
(5) スポーツ・健康・教育・福祉・地域づくりの分野の勉学意欲が高く、その専門家として活躍することを希望している。

学部等名　生涯スポーツ学部スポーツ教育学科

教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページ）
https://www.hokusho-u.ac.jp/hokusho/files/%E6%95%99%E8%82%B2%E7%A0%94%E7%A9%B6%E4%B8%8A%E3%81%AE%E5%9F%BA%E7%A4%8E%E7%9A%84%E3%81%AA%E6%83%85%E5%A0%B1_001%E6%95%99%E8%82%B2%E7%A0%94%E7%A9%B6%E4%B8%8A%E3%81%AE%E7%9B%AE%E7%9A%84.pdf.pdf

（概要）
スポーツ教育に関する高い専門知識と実践的技術を学び、生涯スポーツ社会の実現に向けて、 競技スポーツ、学校教育、地域社会で活躍できる人間性豊かな人材の育成を目的とする

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：学生便覧、本学ホームページ、大学案内）https://www.hokusho-u.ac.jp/school/lifesport/sporteducation/

（概要）
本学科では、以下に示す資質・能力等を修得した者に学位を授与します。
【知識・理解】
(1) 豊かな人間性と社会人として必要な幅広い教養を身に付けている。
(2) 運動・スポーツ・健康・教育に関する専門知識を身に付けている。
(3) 保健体育科教諭、健康運動指導士、アスレティックトレーナーなどを目指す学生は、各養成課程で求められる知識を身に付けている。
【思考・判断】
(4) 自ら考え、設定した課題について、運動・スポーツ・健康・教育の学問領域の研究方法で学んだ知識を活用し、適切な解決策を考えることができる。
【関心・意欲・態度】
(5) 生涯スポーツ社会実現に向けての課題に関心を持ち、幅広い視野で解決策を考える意欲がある。
(6) 多様な価値観をもつ人々が暮らす社会において、自らの役割を自覚するとともに、他者と協働して活動することができる。
【技能・表現】
(7) スポーツを通じて培われたコミュニケーション能力と運動・スポーツ・健康・教育に関する専門的技能と指導力を身に付けている。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：学生便覧、本学ホームページ、大学案内）https://www.hokusho-u.ac.jp/school/lifesport/sporteducation/

（概要）
本学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するため、以下の方針に基づき教育課程を編成します。
【教育内容】
生涯スポーツ社会で活躍できる豊かな人間性と専門性を兼ね備えた人材となるために、スポーツ・健康・教育に関する知識と実践力を段階的に身に付けることができるよう基礎的科目から専門・応用科目を体系的に学修する。
以下の４群に分けたカリキュラム構成とする。
① 幅広い教養と就職に必要な社会人基礎力を育成する科目群（全学共通科目・就業力養成科目）
② 自己の専門的領域を深めるための学際的科目群（発展科目）
③ 自己の専門的志向を確認する基礎的な科目群と基礎学力を養成する科目群（学部共通科目）
④ 自ら選択した専門領域を深める専門的な科目群（学科専門科目）
(1) 講義においては、基礎的・専門的な知識を学ぶ。演習においては自己の課題を発見し他者との討議を積極的に行い問題解決能力を高める。実習においては、地域社会における様々な体験活動を通し、実践的指導力やコミュニケーション能力を高める。
(2) 社会人基礎力を修得するための基礎学力の向上、幅広い教養を身に付ける。
(3) １年次においては基礎学力の向上を目指しながら、スポーツ・健康に関する基礎的知識の修得を目指す。
(4) ３年次から「スポーツ教育コース」、「スポーツトレーナーコース」、「競技スポーツコース」の３コースに分かれて専門的な教育を行い、各自の適性・進路に合った、より専門的な知識や技術を修得する。また、地域における実習・ボランティア活動に取り組むことにより、コミュニケーション能力や実践的指導力を高めることを目指す。
(5) ３年次以降は、ゼミナール形式での「専門演習」、「卒業研究」を通して、専門性をより深く追究し、社会人基礎力の向上に努める。
【教育方法】
(1) 主体的な学びを促進するために、講義、演習、実習や実技においてアクティブ・ラーニングを取り入れた教育方法を採用する。（一部の科目は除く）
(2) １年次では、少人数制担任制度を用いて担任による個人面談を実施し、学習意欲と基礎学力を向上させる。
(3) ２年次では、１年次の学習内容の振り返りを定期的に行い、学修の習熟度を評価し、担任のサポートによる学習意欲や基礎学力のフォローアップを行い、専門演習選択のための評価基準とする。
(4) ３・４年次においては、少人数制の専門演習を必修化し、インタラクティブな教育を実施する。
(5) ３・４年次はゼミ担当者を通じて教員による個人面談を実施し、学士力、社会人基礎力を養う上での学びの振り返りを促す。
【教育評価】
(1) 講義科目、演習・実習科目においては、「筆記試験」、「課題評価」、「作品評価」、「受講態度」等によって、実技科目においては、更に「実技試験」の項目を追加して、学修の習熟度を多角的に評価する。
(2) 各学年において学期ごとに単位の取得状況を確認し、スポーツ・健康に関する専門的知識と高い実践力を身に付け、生涯スポーツ社会に貢献できる人間性豊かな人材としての準備状況の確認評価を行う。
(3) ４年間の学修成果は単位の取得状況、専門演習、卒業研究や資格の取得状況等で総括的に評価を行う。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：学生便覧、本学ホームページ、大学案内）
https://www.hokusho-u.ac.jp/school/lifesport/sporteducation/

（概要）
本学科では、以下に示す資質・能力等を身に付けた者を受け入れます。
(1) 高等学校の教育課程を修了し、高等学校卒業に相当する学力を身に付けている。
(2) 高等学校までの履修内容を通じて、聞く・話す・読む・書くというコミュニケーション能力の基礎的な内容を身に付けている。
(3) 身近な社会問題について、知識や情報をもとにして、筋道を立てて考え、その結果を説明することができる。
(4) スポーツ活動を通して積極的に他者とかかわり、対話を通して相互理解に努めようとする態度を有している。
(5) スポーツの活動経験があり、入学後もスポーツ活動に積極的に関わる（する、みる、支える）意欲を有している。
(6) スポーツ・健康に関することを学び、生涯スポーツ社会において、保健体育科教諭、健康運動指導士、アスレティックトレーナー等を目指し、スポーツ活動や健康づくりを推進しようとする意欲がある。
(7) スポーツ活動を行うための基礎的運動能力を有している。

学部等名　生涯スポーツ学部健康福祉学科

教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページ）
https://www.hokusho-u.ac.jp/hokusho/files/%E6%95%99%E8%82%B2%E7%A0%94%E7%A9%B6%E4%B8%8A%E3%81%AE%E5%9F%BA%E7%A4%8E%E7%9A%84%E3%81%AA%E6%83%85%E5%A0%B1_001%E6%95%99%E8%82%B2%E7%A0%94%E7%A9%B6%E4%B8%8A%E3%81%AE%E7%9B%AE%E7%9A%84.pdf.pdf

（概要）
健康・福祉・介護・スポーツに関する幅広い専門的知識の習得と地域貢献等に主体的に取り組む実践をとおして優れた企画力・実践力・連携力の養成をめざし、少子高齢社会における地域づくり、健康づくり、対人援助などを推進するスポーツマインドを持った福祉実践者、福祉マインドを持った健康運動指導者の育成を目的とする。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：学生便覧、本学ホームページ、大学案内）https://www.hokusho-u.ac.jp/school/lifesport/healthwelfare/

（概要）
本学科では、以下に示す資質・能力等を修得した者に学位を授与します。
【知識・理解】
(1) 豊かな人間性と社会人として必要な幅広い教養を身に付けている。
(2) 福祉と健康に関する専門知識を身に付けている。
(3) 社会福祉士、健康運動指導士等を目指す学生は、各養成課程で求められる知識と技能を身に付けている。
【思考・判断】
(4) 地域社会が抱える課題に対し、福祉と健康の両学問領域で学んだ知識を活用し、解決策を考えることができる。
【関心・意欲・態度】
(5) 健康や福祉課題について関心を持ち、幅広い視野で解決策を考える意欲がある。
(6) 多様な価値観を持つ人々が暮らす社会において、自らの役割を自覚するとともに、他者と連携して活動することができる。
【技能・表現】
(7) 円滑なコミュニケーション力と福祉と健康に関する専門技術を身に付けている。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：学生便覧、本学ホームページ、大学案内）https://www.hokusho-u.ac.jp/school/lifesport/healthwelfare/

（概要）
本学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するため、以下の方針に基づき教育課程を編成します。
【教育内容】
(1) 豊かな人間性と社会人としての幅広い教養については、全学教育の教養科目、キャリア科目、発展科目を中心に４年間かけて学びを積み重ねていく。併せて初年次の基礎教育セミナーでも、学びに必要な能力を育成する。
(2) 福祉と健康に関する専門知識については、初年次に必修科目の「健康学」「健康福祉学概論」を配置し、最低限の知識を身に付ける。さらに学生が自ら希望する専門分野を中心に学べるように教育課程を配置している。
(3) 社会福祉士、健康運動指導士等多数の資格に必要な知識や実践力を段階的に学ぶことができるよう教育課程を編成している。また健康、社会福祉領域の専門知識を幅広く学ぶことができるよう科目を配置している。
【教育方法】
(1) 学生が着実に知識を積み上げていけるように、基礎的な学修から専門的な学修へ段階的に学ぶカリキュラム構成となっている。
(2) 学生の主体的な学びを促進するために、様々な形態のアクティブ・ラーニングを積極的に取り入れている。
(3) 現場で活かせる実践力を高めるため、初年次より学外での実習を充実させている。
(4) 他者とのコミュニケーションや自分の考えを述べることを重視し、基礎教育セミナーやキャリアデザイン、専門演習など、少人数での授業を展開している。
【教育評価】
(1) 講義科目、演習・実習科目においては、「筆記試験」、「課題評価」、「作品評価」、「受講態度」等によって、実技科目においては、更に「実技試験」の項目を追加して、学修の習熟度を多角的に評価する。
(2) 各学年において学期ごとに単位の取得状況を確認し、福祉と健康に関する専門的知識と高い実践力を身に付け、地域社会に貢献できる人間性豊かな人材としての準備状況の確認評価を行う。
(3) ４年間の学修成果は単位の取得状況、専門演習、卒業研究や資格の取得状況等で総括的に評価を行う。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：学生便覧、本学ホームページ、大学案内）
https://www.hokusho-u.ac.jp/school/lifesport/healthwelfare/

（概要）
本学科では、以下に示す資質・能力等を身に付けた者を受け入れます。
(1) 高等学校の教育課程を修了し、高等学校卒業に相当する学力を身に付けている。
(2) 高等学校までの履修内容を通じて、聞く・話す・読む・書くというコミュニケーション能力の基礎的な内容を身に付けている。
(3) 健康や福祉に関する社会的な諸課題について、自ら得た知識・情報に基づいて論理的に思考し、それを説明することができる。
(4) 健康分野及び福祉分野の勉学意欲が高く、その専門家として活躍することを希望している。
(5) 他者とのかかわりを深め、地域社会に貢献するための能力や対人援助のための実践能力を身に付ける意欲を持っている。

学部等名　教育文化学部

教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページ）
https://www.hokusho-u.ac.jp/hokusho/files/%E6%95%99%E8%82%B2%E7%A0%94%E7%A9%B6%E4%B8%8A%E3%81%AE%E5%9F%BA%E7%A4%8E%E7%9A%84%E3%81%AA%E6%83%85%E5%A0%B1_001%E6%95%99%E8%82%B2%E7%A0%94%E7%A9%B6%E4%B8%8A%E3%81%AE%E7%9B%AE%E7%9A%84.pdf.pdf

（概要）
教育学、芸術学、心理学のそれぞれの専門領域の特性を生かしつつ横断統合した学部であることから、当学部での多様な学びをとおして、幼児教育・学校教育から生涯学習にいたる幅広い世代の学びへの支援の観点を踏まえつつ、社会と関わり、時代のニーズに応え得る人材を養成する。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：学生便覧、本学ホームページ、大学案内）https://www.hokusho-u.ac.jp/school/educationalcultural/index.html

（概要）
教育文化学部（以下、「本学部」という）は、教育学、芸術学、心理学のそれぞれの専門領域の特質を活かしつつ横断統合した学部です。本学部での多様な学びを通して、幼児教育・学校教育から生涯学習にいたる幅広い世代の学びへの支援の観点を踏まえつつ、社会と関わり、時代のニーズに応え得る能力を身に付け、各学科での所定の単位を修得した以下の学生に、「学士（教育学）」「学士（芸術学）」「学士（心理カウンセリング学）」の学位を授与します。
(1) 専門的な知識を総合的な実践力へとつなげ、教育現場や関係諸機関・企業、そして広く地域社会において、教育文化の継承・発展に寄与する専門職業人としての力を備えている。
(2) 豊かな人間性と柔軟な思考力をもち、高い専門性と実践力を身に付け、幼児や児童・生徒の生活や学び活動を支援できる能力を備えている。
(3) 幅広い芸術文化の基礎理解と確かな専門技術を獲得し、多様な職種において芸術性を活かし、社会貢献できる能力を備えている。
(4) 心理学及び精神保健福祉学の専門知識をもち、人間援助の総合的アプローチとしてのカウンセリングの素養を身に付け、対人支援ができる能力を備えている。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：学生便覧、本学ホームページ、大学案内）https://www.hokusho-u.ac.jp/school/educationalcultural/index.html

（概要）
本学部では、教育学、芸術学、心理学それぞれの学科の教育課程の円滑な運用を通して、学科専門科目、学部共通科目や発展科目など、さまざまな関連分野も含めた総合的・学際的な学びの場を提供します。本学部の教育課程では、柔軟な思考と豊かな感性そして広い教養を備えた質の高い実践的な職業人や教員が具備すべき能力を養います。さらに全学共通の基礎教育科目や全学年を貫き取り組む就業力養成科目を通して、社会人基礎力や課題解決能力の醸成など現代社会が求める能力の修得を目指します。
カリキュラムの基本的な構成は次の４群です。
(1) 幅広い教養と就職に必要な社会人基礎力を養成する科目群（全学共通科目・就業力養成科目）
(2) 自己の専門的領域を深めるための学際的科目群（発展科目）
(3) 自己の専門的志向を確認する基礎的な科目群（学部共通科目）
(4) 各自の選択した専門領域を深める専門的な科目群（学科専門科目）

入学者の受入れに関する方針（公表方法：学生便覧、本学ホームページ、大学案内）https://www.hokusho-u.ac.jp/school/educationalcultural/index.html

（概要）
本学部では、未来を担うこどもたちの教育に関わり、地域社会のさまざまな文化・芸術活動の発展に貢献し、人間理解と対人援助に力を注ぐ実践能力を身に付けたいと考える以下の人材を求めます。
(1) 高等学校の教育課程を修得し、入学後の修学に必要な基礎学力を有している。
(2) 教育学、芸術学、心理学に強い関心があり、自ら課題を見つけ能動的に学修して専門性を身に付けようとする意欲がある。
(3) 幼稚園教諭、小学校教諭、特別支援学校教諭、養護教諭、中学校・高等学校教諭（音楽・美術）、保育士、学芸員、インテリアプランナー、建築士、認定心理士、福祉心理士、

精神保健福祉士、公認心理師、社会教育主事などの専門的職業人を目指している。
(4) 幼児・児童・生徒の視点に立ち、豊かな人間性と柔軟な思考力をもち、高い専門性と実践力を身に付け、教育現場で活躍したいという意欲がある。
(5) 美術、メディアデザイン、インテリア建築、服飾美術、舞台芸術などの芸術分野に興味があり、芸術を通して成長し、創造性を活かして社会で活躍したいという意欲がある。
(6) 自分自身の理解、自分を取り巻く他者の理解、人と人とのかかわり合いの理解について深め、心理学と精神保健福祉学の専門知識を人々の人生をより豊かにするために活かしたいという意欲がある。

学部等名　教育文化学部教育学科
教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページ） https://www.hokusho-u.ac.jp/hokusho/files/%E6%95%99%E8%82%B2%E7%A0%94%E7%A9%B6%E4%B8%8A%E3%81%AE%E5%9F%BA%E7%A4%8E%E7%9A%84%E3%81%AA%E6%83%85%E5%A0%B1_001%E6%95%99%E8%82%B2%E7%A0%94%E7%A9%B6%E4%B8%8A%E3%81%AE%E7%9B%AE%E7%9A%84.pdf.pdf
（概要） こどもの視点に立ち、豊かな人間性と柔軟な思考力をもち、高い専門性と実践力を身につけ、多様な学習活動をつくりだすことのできる教員を養成する。生涯発達における幼児・児童・生徒期の意義役割を理解し、学習支援とさらには心豊かな情操教育を支援する人材を育成する。こどもの心身の健康課題の専門的知識と指導力をもち、さらに特別な教育支援を必要とするこどもに 情熱をもって関わることのできる教員の育成を目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：学生便覧、本学ホームページ、大学案内）https://www.hokusho-u.ac.jp/school/educationalcultural/education/
（概要） 本学科では、以下に示す資質・能力等を修得した者に学位を授与します。 【知識・理解】 (1) 文化、歴史、教育、地理、生活、自然環境等について幅広い知識を身に付けている。 (2) 現代社会の諸問題の存在について、広く理解、教育者として社会に参画できる力を身に付けている。 (3) 教育学の体系的知識を身に付け、教育上の諸問題を踏まえつつ、幼児・児童・生徒理解を深めることができる。 【思考・判断】 (4) 学修成果を状況に応じて実践的に活用することができる。 (5) 現代社会が抱える課題に対し、学んだ知識を活用し、解決策を考えることができる。 (6) 社会や教育上の諸問題を発見・理解し、解決のための方策を見いだすことができる。 【関心・意欲・態度】 (7) 研究と修養を継続的に行う意思を有し、自律的かつ主体的に取り組むことができる。 (8) 地域社会の動向や教育事情をよく理解し、教育者として幼児・児童・生徒はもとより地域社会に貢献する高い志を持つことができる。 (9) 高い倫理観と正義感を持つことができる。 【技能・表現】 (10) 読解、要約、まとめ、発表などの基本的なスタディ・スキルを身に付けている。 (11) 教員等に求められるコミュニケーション力や表現力を身に付けている。また、今日的な情報処理に関するリテラシーを有し、情報の明確な受発信ができる。 (12) 多様な価値観を理解して、適切な行動をとることができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：学生便覧、本学ホームページ、大学案内）https://www.hokusho-u.ac.jp/school/educationalcultural/education/
（概要） 本学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するため、以下の方針に基づ

き教育課程を編成します。
【教育内容】
(1)　４コースあり、それぞれの目的にあった科目を設定している。大学での学び方を身に付ける「基礎教育セミナー」を必修科目として１年次に位置付けるとともに、４年間の学修の基礎になる科目を１・２年次に履修できるようにする。また、幅広い視野と知識を身に付けるために、教養科目や他学科の専門的な科目を、全学共通科目や発展科目に位置付け履修できるようにする。
(2)　社会人としての必要な基礎力を育成することを目的とし、全学的にキャリア教育に関して「キャリアデザイン」を１年次から３年次にわたるまで必修科目として位置付ける。学修の足跡をキャリアノートに記録し、指導担当教員と共有することで、学生のキャリア発達に関わる成長の確認をする。
(3)　教員養成を主な目的とする学科であることから、教職免許を取得するための「教科（領域・養護）に関する科目」、「教職に関する科目」を中心的な専門科目として位置付ける。概論や各論の履修後に、指導法の履修や実習、さらには専門分野の研究を行うことで、系統的な学びを展開する。また、小学校･幼稚園の教育実習・養護実習を３年次に、看護学臨床実習を２年次に、保育実習を３･4 年次に、中高音楽の教育実習・特別支援学校の教育実習を４年次に設定し、より実践的な力を身に付けることができるようにする。
(4)　各コースとも、４年次に卒業研究を設定し、大学における専門的な学びを総括する。
【教育方法】
(1)　専門性を高めるために、理論の指導を確実にしたうえで、演習的な講義を展開している。
(2)　個々の授業では、理論に基づく実践力を付けるために、様々な形態のアクティブ・ラーニングを導入している。
(3)　各コースの特性を重んじて、文献・映像・音声・演奏・実物提示などの教材を吟味し、活用している。教育のＩＣＴ化にも対応し、科目によってはタブレットや電子黒板などを使用する。
(4)　各コースの特性に応じて、学外での学習活動を充実し、学会や研究会への参加・発表などを学生に促している。例えば、初等教育コース・幼児教育コースでは、教育・保育に関わる各種ボランティア活動への参加を促すことで、学生の幼児・児童理解を深め、指導技術の向上を図っている。音楽コースでは、関連学校や地域の催し物に参加し、社会貢献することを推奨し専門性の向上を図っている。養護教諭コースでは、２年次での看護学臨床実習に向け、初年度から理論学習や実習準備を行う。また、積極的に学会への参加を促し、専門性の向上を図っている。
(5)　教科に関する指導法等の科目では、模擬授業等を積極的に取り入れ、実践力の向上を図っている。
(6)　学生達の学びの状況を適切に把握し、よりよい学修状況へと導くために前学期・後学期ごとにＧＴ、ゼミごとに個人面談を行っている。
【教育評価】
(1)　各科目で設定した評価方法に基づいて実施する。講義中の発言内容やレポートの状況、試験の成績等を総合的に判断して成績評価を行う。
(2)　ポータルサイトを活用し、学びの習熟度を学生自ら確認できるようにする。
(3)　学習状況について教員と学生が個別に相談したり、学科に所属する教員間で情報を共有したりして、客観的な評価と指導の充実を行う。
(4)　卒業の判定にあたっては、専門演習や卒業研究から、４年間の学びの成果を総合的に評価する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：学生便覧、本学ホームページ、大学案内）
https://www.hokusho-u.ac.jp/school/educationalcultural/education/

（概要）
本学科では、以下に示す資質・能力等を身に付けた者を受け入れます。
(1) 高等学校の教育課程を修了し、高等学校卒業に相当する学力を身に付けている。
(2) 教育や保育に関する社会的な諸課題について、自分の持っている知識や情報により論理的に思考し、それを説明したり表現したりできる。
(3) 「初等教育」、「幼児教育」、「養護教諭」、「音楽」の４コースから、主体的に所属先を選択・希望するために、専門性の高い職業に就く目的意識を有し、そのためにどのような学びを展開していきたいのか、具体的に考えることができる。
(4) 高等学校等で課外活動やボランティアなど、多様な活動経験を有している。

学部等名　教育文化学部芸術学科

教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページ）
https://www.hokusho-u.ac.jp/hokusho/files/%E6%95%99%E8%82%B2%E7%A0%94%E7%A9%B6%E4%B8%8A%E3%81%AE%E5%9F%BA%E7%A4%8E%E7%9A%84%E3%81%AA%E6%83%85%E5%A0%B1_001%E6%95%99%E8%82%B2%E7%A0%94%E7%A9%B6%E4%B8%8A%E3%81%AE%E7%9B%AE%E7%9A%84.pdf.pdf

（概要）
美術、メディアデザイン、インテリア建築、服飾美術、舞台芸術などの各芸術領域を学び、理論と実践に係る研究を深め創造性を培い、共同制作や発表活動を活発におこなうことによって、あらゆる職種において芸術性を活かし、自らの人生を切り開き、社会貢献できる人材を養成する。ま た、美術教育並びに生涯学習の観点から、中学校、高等学校、美術館、博物館、劇場、福祉施 設、NPO 等で芸術の専門知識とコミュニケーション能力を活かし、芸術文化の持つ豊かな力や技 法を教えられる指導者や学習支援者を養成する。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：学生便覧、本学ホームページ、大学案内）https://www.hokusho-u.ac.jp/school/educationalcultural/artanddesign/

（概要）
本学科では、以下に示す資質・能力等を修得した者に学位を授与します。
【知識・理解】
(1) 豊かな人間性と芸術分野における幅広い知識を身に付けている。
(2) 選択した分野の専門的知識を身に付けている。
【技能・表現】
(3) 芸術の多様な技能と豊かな表現能力を身に付けている。
(4) 豊かな表現能力・活用能力を身に付けている。
【思考・判断】
(5) 芸術の幅広い視点に基づく問題分析力・考察力・対応力を身に付けている。
(6) 問題解決に関する提案力を身に付けている。
【関心・意欲・態度】
(7) 芸術活動を通した自己探求力を身に付けている。
(8) 社会における自分の役割を自覚する力を身に付けている。
(9) 社会における文化振興に貢献し、社会人としての使命感や責任感を持って行動する力を身に付けている。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：学生便覧、本学ホームページ、大学案内）https://www.hokusho-u.ac.jp/school/educationalcultural/artanddesign/

（概要）
本学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するため、以下の方針に基づき教育課程を編成します。
【教育内容】
(1) 芸術教育を通して創造性を培うために、美術、メディアデザイン、インテリア建築、服飾美術、舞台芸術の５分野に関する専門科目を配置する。

(2) 芸術理解、表現技術、情報技術、アート教育・文化、平面表現、立体表現、空間・身体表現、発想・企画・プレゼンテーション、総合・統合の芸術の各領域で構成されており、理論と実践に係る研究を深め、技能を向上させるための科目を設定する。
(3) 創作活動や発表を活発に行うことによって、専門分野をさらに深化させ、社会人としての教養を修得することができる編成とする。
(4) 各学生が自ら選択する分野で、専門的学習が行えるよう分野別の教育課程を整備し、さらに、複数の分野の専門科目を履修できる枠組みを設定する。
【教育方法】
(1) 主体的な学びを促進するために、講義、演習、実習科目において、アクティブ・ラーニング等を取り入れた教育方法を採用する。
(2) ３年次に専門演習、４年次に卒業研究など、少人数制のゼミを必修化し、教員が各学生の身近な存在となり、目の行き届いた教育を実施する。
【教育評価】
(1) 提出課題、作品などを評価対象として、教員による評価を毎学期実施する。
(2) ４年間の総括的な学修成果については、外部での発表会などを通して、担当教員による卒業研究の評価によってこれを行う。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：学生便覧、本学ホームページ、大学案内）
https://www.hokusho-u.ac.jp/school/educationalcultural/artanddesign/

（概要）
本学科では、以下に示す資質・能力等を身に付けた者を受け入れます。
(1) 高等学校の教育課程を修了し、高等学校卒業に相当する学力を身に付けている。
(2) 美術、メディアデザイン、インテリア建築、服飾美術、舞台芸術などの芸術分野に興味があり、芸術の学びを通して成長したいという意志を有している。
(3) 自分のことだけではなく、広く社会を見渡し、自分の創造力や構想力によって他者に寄与したいという意志を有している。
(4) 様々な事を思案するだけに留まらず、芸術分野における創作表現の実践や、既成概念にとらわれない新たな挑戦を行いたいという意志を有している。
(5) 創作制作を通じ、他者と互いに学び合いたいという意志を有している。

学部等名　教育文化学部心理カウンセリング学科

教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページ）
https://www.hokusho-u.ac.jp/hokusho/files/%E6%95%99%E8%82%B2%E7%A0%94%E7%A9%B6%E4%B8%8A%E3%81%AE%E5%9F%BA%E7%A4%8E%E7%9A%84%E3%81%AA%E6%83%85%E5%A0%B1_001%E6%95%99%E8%82%B2%E7%A0%94%E7%A9%B6%E4%B8%8A%E3%81%AE%E7%9B%AE%E7%9A%84.pdf.pdf

（概要）
心理学、社会福祉学、教育学を統合した学際的観点から、一人ひとりの生活を包括的に支える実践力を養成する。こころの科学としての心理学の基礎から応用に至る理論と技法、および精神 保健福祉学の専門知識をもち、心理的支援に限らず、福祉、教育・保育を含む、より広い領域における人間援助の総合的アプローチとしてのカウンセリングの素養を身につけ、現代社会に貢献する人材の育成を目的とする。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：学生便覧、本学ホームページ、大学案内）https://www.hokusho-u.ac.jp/school/educationalcultural/psycology/

（概要）
本学科では、以下に示す資質・能力等を修得した者に学位を授与します。
【知識・理解】
(1) 豊かな人間性と社会人としての幅広い教養を身に付けている。
(2) 心理学及び精神保健福祉学における基礎的知識を身に付けている。
(3) 心理学及び精神保健福祉学に基づく対人援助の方法に関する知識を身に付けている。

【思考・判断】
(4) 自ら考え、設定した課題について、心理学及び精神保健福祉学の知識を活用し、現代社会が抱える諸問題への解決方法について考察できる。
【関心・意欲・態度】
(5) 心のケアや生活支援に関心を持ち、その実践に取り組む意欲を持っている。
(6) 自分自身の心のありかたを分析し、対人援助に役立てる意欲を持っている。
【技能・表現】
(7) 対人援助の総合的アプローチとしてのカウンセリングの素養を身に付け、地域住民が心豊かに暮らすことに貢献できる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：学生便覧、本学ホームページ、大学案内）https://www.hokusho-u.ac.jp/school/educationalcultural/psycology/

（概要）
本学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するため、以下の方針に基づき教育課程を編成します。
【教育内容】
(1) 心理学・精神保健福祉学の修得に向けた準備のため、基礎教育科目としては大学での学び方を身に付ける基礎教育セミナー、語学、情報機器操作、現代生活と諸関連領域を含めた教養科目を学んでいく。加えて発展科目としては他学科の専門的な科目を履修することにより、人を取り巻く様々な環境について理解を深め、心の支援の実践に活かすための学びを深めていく。
(2) 就業力養成科目においては、専門的知識を援用した自身のキャリア形成のための自己探究やコミュニケーションのスキルを学んでいく。
(3) 専門科目においては、心理学に関するものとして、公認心理師国家試験受験資格を取得するためのカリキュラムを含む基礎から応用にいたる心理学の幅広い分野における講義・演習科目により、心についての理解を深めるとともに、「心の支援」に携わるためのカウンセリングの知識とスキルを修得していく。精神保健福祉学に関するものとしては、精神保健福祉士国家試験受験資格を取得するためのカリキュラムを通して、「生活と人との関係への支援」のための基礎的知識と実践に結び付けるための体験的知識を修得していく。
(4) ３年次以降では、専門演習において本学科で修得した知識と能力を応用し、研究的思考により発展させ、卒業研究において専門的な学びの総括を行う。
【教育方法】
(1) １年次よりゼミ担任制をとり、学生の学びの状況を適切に把握し、よりよい学修状況へと導くための指導を行っている。
(2) 主体的な学びを促進するため、様々な形態のアクティブ・ラーニングを導入している。
(3) 専門性を高めるために、基礎的理論の理解に基づいた上で心の探究に関する研究方法や、心の支援を実践するための方法について理解を深めるための演習的な講義を展開している。
(4) 学内外における実習により、心の支援に携わるための実践力を身に付ける。
(5) 専門演習・卒業研究においては各自のテーマに基づき主体的に文献検索を行い、得られた成果のプレゼンテーションとディスカッションを経て研究としてまとめていく。
【教育評価】
(1) 各科目において設定された到達目標の達成については、設定された方法に基づき、講義中の発言内容やレポートの状況、試験の成績等を総合的に判断し評価を行う。
(2) 最終年次には、大学での学びを総括する取り組みである卒業研究において研究成果を提出物ならびに口頭発表によって示す。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：学生便覧、本学ホームページ、大学案内）

https://www.hokusho-u.ac.jp/school/educationalcultural/psycology/
（概要） 本学科では、以下に示す資質・能力等を身に付けた者を受け入れます。 (1) 高等学校の教育課程を修了し、高等学校卒業に相当する学力を身に付けている。 (2) 高等学校までの履修内容を通じて、聞く・話す・読む・書くというコミュニケーション能力の基礎的な内容を身に付けている。 (3) 心理学や精神保健福祉学に関する社会的な諸問題について、自ら得た知識・情報に基づいて論理的に思考し、それを説明することができる。 (4) 入学後の修学に必要とされる、コミュニケーション力、及び、主体性をもって学ぶ姿勢を持っている。 (5) 自分自身の心、自分を取り巻く他者の心、そして人と人とのかかわり合いについて理解を深める意欲を持っている。 (6) 心理学・精神保健福祉学の専門知識に基づき、人間理解と対人援助に力を注ぐための実践能力を身に付ける意欲を持っている。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：本学ホームページ https://www.hokusho-u.ac.jp/hokusho/infopublic.html

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a.教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手その他	計
－	3 人	－					3 人
生涯スポーツ学部	－	19 人	12 人	8 人	人	人	39 人
教育文化学部	－	25 人	18 人	7 人	人	1 人	51 人

b.教員数（兼務者）		
学長・副学長	学長・副学長以外の教員	計
0 人	224 人	224 人

各教員の有する学位及び業績（教員データベース等）	公表方法：https://www.acoffice.jp/hsuhp/KgApp

c.ＦＤ（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）
FD ネットワーク“つばさ”、北海道 FD･SD 協議会に加盟 FD/SD 研修会及び関連イベントを年数回実施、授業改善アンケートの実施

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a.入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学定員	編入学者数
生涯ｽﾎﾟｰﾂ学部	220 人	254 人	115.4%	910 人	1008 人	110.7%	30 人	2 人
教育文化学部	220 人	252 人	114.5%	920 人	1037 人	112.7%	40 人	5 人
合計	440 人	506 人	115%	1830 人	2045 人	111.7%	70 人	7 人

（備考）

b.卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数（自営業を含む。）	その他
生涯スポーツ	193 人 (100%)	4 人 (2.1%)	180 人 (93.3%)	9 人 (4.7%)
教育文化	245 人 (100%)	8 人 (3.3%)	211 人 (86.1%)	26 人 (10.6%)
合計	438 人 (100%)	12 人 (2.7%)	391 人 (89.3%)	35 人 (8.0%)

（主な進学先・就職先）（任意記載事項）
北海道札幌南陵高等学校、北海道おといねっぷ美術工芸高等学校、帯広市立南町中学校、札幌市立月寒東小学校、函館市立東山小学校、北海道真駒内養護学校、ホクレン農業協同組合連合会、生活協同組合コープさっぽろ、㈱鹿児島銀行、㈱常口アトム、ネッツトヨタ札幌㈱、㈱シャトレーゼ、北海道酒類販売㈱、㈱濱野建材店、㈱ツルハ、㈻高陽学園認定こども園当別夢の国幼稚園、(福)太平福祉会太平保育園、(福)北ひろしま福祉会、(一財)札幌市スポーツ協会、北海道警察、函館市、札幌市（保育士）他

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）

学部等名	入学者数	修業年限期間内卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (　　%)	人 (　　%)	人 (　　%)	人 (　　%)
	人 (100%)	人 (　　%)	人 (　　%)	人 (　　%)	人 (　　%)
合計	人 (100%)	人 (　　%)	人 (　　%)	人 (　　%)	人 (　　%)

（備考）

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

（概要）
全ての科目について、詳細なシラバス（講義要綱）を作成している。作成に当たっては、学習支援委員会において、シラバス作成における記載事項を定め、記載方法の統一を図り、授業担当者は、示された記載要領に沿ってシラバスを作成している。
シラバスの記載事項は、「科目名」「授業形態」「単位数」「教員名」「授業の目的（ねらいと到達目標）」「授業の計画（テーマ、計画内容、授業時間外の学修内容、具体的な学習形態）」「テキスト」「参考書」「成績評価の方法（配分、補足）」「課題に関するフィードバックの方法」「実務経験と授業の関連（経験内容、科目との関連）」「質問への対応」「資格」「その他（履修に際しての留意事項等）」としている。
（様式第２号の３【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】該当部分再掲）

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

（概要）
単位認定については、各学部・学科のディプロマ・ポリシーを踏まえ、学則に規定する基準に基づいて行われている。
　評価方法については、講義等における多様な評価方法をとることを推進しており、シラバスに、その評価方法を記載している。評価方法は、筆記試験、実技試験、課題評価、作品評価、受講態度等共通項目をたて、評価の配分を示し、補足欄にその詳細を記載している。評価については、S（90 点以上）・A（89～80 点）・B（79～70 点）・C（69～60 点）・D（59 点以下）の５段階によって評価し、S から C までを合格とし単位が与えられる。
　段階を設けた成績評価の意味や数値、計算等については学生便覧に記載し、学生ポータル等も活用し学生に周知している。
（様式第２号の３【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】該当部分再掲）

学部名	学科名	卒業又は修了に必要となる単位数	ＧＰＡ制度の採用（任意記載事項）	履修単位の登録上限（任意記載事項）
生涯スポーツ学部	生涯スポーツ学科	１２４単位	有・無	単位
	スポーツ教育学科	１２４単位	有・無	単位
	健康福祉学科	１２４単位	有・無	単位
教育文化学部	教育学科	１２４単位	有・無	単位

	芸術学科	１２４単位	有・無	単位
	心理カウンセリング学科	１２４単位	有・無	単位
ＧＰＡの活用状況（任意記載事項）		公表方法：学生便覧及びホームページに掲載		
学生の学修状況に係る参考情報（任意記載事項）		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：大学ホームページ https://www.hokusho-u.ac.jp/studentlife/campusguide/

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料（年間）	入学金	その他	備考（任意記載事項）
生涯スポーツ学部	生涯スポーツ学科	850,000 円	310,000 円	250,000 円	施設設備費
教育文化学部	教育学科				施設設備費
	芸術学科				施設設備費
	心理カウンセリング学科				施設設備費

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a.学生の修学に係る支援に関する取組

（概要）
教育支援総合センターに「何でも相談」窓口を設け、各部署と連携を図りながら学修・生活全般にわたる疑問や質問に対応できる体制を整えている。また、学修支援では、教員のオフィスアワーを利用して個別の指導を行い、支援に加えて授業評価を実施することで学生のニーズを把握し理解するように努めている。学生が安心して学びを深められるよう、経済的な支援を必要とする学生へは奨学金の周知を行ったり、100 円朝食を企画するなど、学生のあらゆる生活全般のサポートを行っている。また、令和７年度に実施した海外研修の取り組みを今年も継続し、国際交流を活発化していく。

b.進路選択に係る支援に関する取組

（概要）
（１）就業力養成科目による社会人基礎力・就業力の養成
　座学のみならずグループワークやプレゼンテーション、本学卒業生や企業の人事担当者等と接点を持つ機会を設け、実社会で必要となる知識や考え方ついて理解を深めている。また、履歴書作成や面接対策等、就職活動に向けた対策も取り入れている。
（２）インターンシップ等参加の強化
　３年次科目として「インターンシップ」を開講し、参加の支援をしている。また、自主的に探して参加することを促すため、正課科目とは別にインターンシップセミナーを開催している。
（３）個人面談・連絡の実施
　対面とオンライン（チャットを含む）を併用し、面談や進路状況の確認連絡をしている。大学から積極的に連絡することでキャリア支援センターの利用にも繋がり、進路決定までの支援を継続している。
（４）学内合同企業研究会の開催
　令和７年度は 11 月および２月にオンラインで開催し、参加企業等 48 社に対して延べ 152 名の学生が参加した。
（５）学内単独企業説明会の開催
　採用に関する内容の他、職業の魅力を伝える説明会を開催している。令和７年度は 32 社開催し、延べ 135 名の学生が参加した。
（６）就職ガイダンスの開催
　学年に合わせた内容を４月に開催し、就職への醸成を図っている。
（７）就職活動対策セミナー
　就職情報サイトの活用や企業研究、エントリーシート作成、面接等、就職活動の対策セミナーを開催している。参加のしやすさを考慮し、対面とオンラインを併用している。
（８）ジェネリックスキル測定・育成ツール「PROG」の活用
　１年・３年に実施している。「リテラシー」および「コンピテンシー」の結果を自己分析や就職活動等に活用するための解説会を開催している。

c.学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

（概要）本学は保健センターの中に保健センター、学生相談室、アクセシビリティ支援室の部門を含めている。それぞれの機能としては、保健センターでは健康で充実した学生生活を送ることができるよう、保健師や看護師が疾病予防や健康の保持増進を援助することを目的として健康診断等を運営、傷病対応している。学生相談室では心理的な悩みや、健康・学業・進路の悩みなど大学生活に関することをカウンセラー(臨床心理士・公認心理師)が相談に応じている。また、アクセシビリティ支援室ではコーディネーター(精神保健福祉士)を中心として、障害のある学生の支援ニーズに応じており、合理的配慮の調整や支援体制の整備に取り組んでいる。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：本学ホームページ
https://www.hokusho-u.ac.jp/hokusho/infopublic.html

備考　この用紙の大きさは、日本産業規格Ａ４とする。

（別紙）

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	F101310100285
学校名（○○大学 等）	北翔大学
設置者名（学校法人○○学園 等）	学校法人　北翔大学

１．前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生（内数） ※家計急変による者を除く。		512人（　280　）人	495人（　274　）人	548人（　283　）人
内訳	第Ⅰ区分	177人	151人	
	（うち多子世帯）	（　34人）	（　23人）	
	第Ⅱ区分	64人	70人	
	（うち多子世帯）	（　11人）	（　13人）	
	第Ⅲ区分	51人	45人	
	（うち多子世帯）	（　15人）	（　－人）	
	第Ⅳ区分（理工農）	0人	0人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	71人	64人	
	区分外（多子世帯）	149人	165人	
家計急変による 支援対象者（年間）				－（　0　）人
合計（年間）				548人（　283　）人
（備考）				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第８号）第４条第２項第１号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第４９号）第２条第１項第２号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

２．前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

（１）偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人

（２）適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	－	人	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当）	－	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	12人	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	－	人	人
計	31人	人	人
（備考）			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の（２）のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	人	後半期	人

（３）退学又は停学（期間の定めのないもの又は３月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
３月以上の停学	0人
年間計	0人
（備考）	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

３．前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

（１）停学（３月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

３月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
（備考）	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

（２）適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
ＧＰＡ等が下位４分の１	0人	人	人

４．適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当	0人	人	人
ＧＰＡ等が下位４分の１	56人	人	人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	55人	人	人
計	72人	人	人
（備考）			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。